

M

Zero Carbon
Consortium

松本平

ゼロカーボン

コンソーシアム



松本平ゼロカーボン・コンソーシアムの取組みと展望

松本平ゼロカーボン・コンソーシアム事務局 次長
松本市環境・地域エネルギー課 課長 鈴木 博史

1 設立経緯

- 平成28年度 「松本市再生可能エネルギー地産地消推進計画」に「パートナーシップ推進組織による再エネ事業推進支援」を明記
- 平成29年度 信州大学と松本市との包括連携協定に基づく連携協議会にて連携を希望する事業として本組織が提案・追加
- 平成30年度～ 組織設立に向け、信州大学と協議を重ねる
- 令和3年度 信州大学と松本市が中心となり、設立準備会を計3回実施
- 令和4年2月 松本平ゼロカーボン・コンソーシアム設立

2 目的

世界的に求められることとなった2050年を目標とする「脱炭素社会」の実現に向け、広く松本地域の産学官の力を結集させ、地域性と事業性が両立したエネルギー自立地域の形成が促進される事業の展開を支援する。

3 扱うテーマ

- 地域主導型のエネルギー事業の確立
- 再生可能エネルギーの導入
- 住宅・ビル等の省エネ技術開発と普及
- EV(電気自動車)やFCV(燃料電池自動車)等の普及
- その他、脱炭素社会の実現のために必要な活動

4 組織体制

会長	国立大学法人信州大学 副学長 林靖人
副会長	松本ガス株式会社 代表取締役社長 清水是昭
副会長	松本市 副市長 中野嘉勝
監事	株式会社八十二長野銀行 松本信用金庫
運営委員	大学、研究機関、自治体、金融機関、地域エネルギー会社17者 MZCCの活動については、運営委員会で協議した上で実施している。
事務局	運営委員会事務局は信州大学 松本市 環境・地域エネルギー課

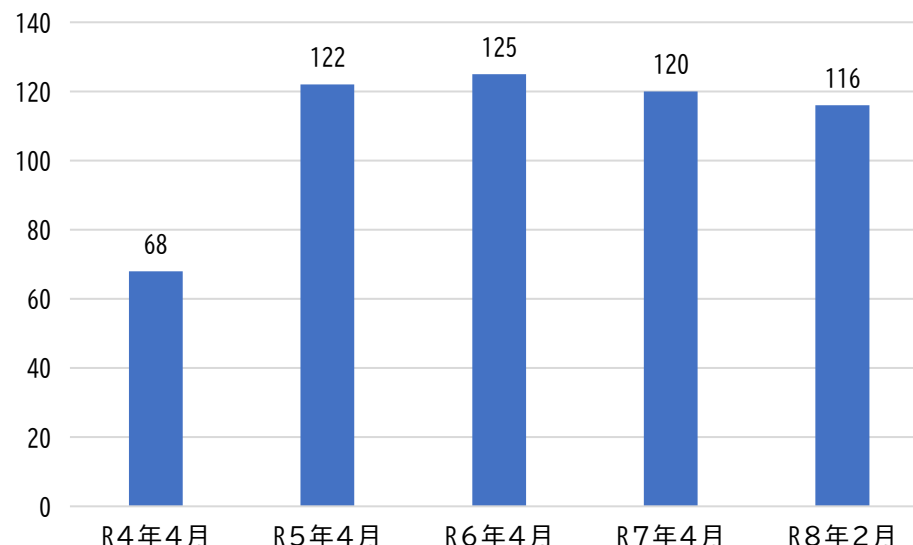
5 会員について

(1) 会員数

116者(令和8年2月末時点)

(2) 構成

- ・ 松本平地域で事業を営む中小規模の事業者から都市圏に本社を置く大企業まで様々
- ・ 建設業が最も多く、続いて製造業、卸売業・小売業となっている。
- ・ 自治体は3市3村が参加



6 取組み

定例フォーラム

- 目的
テーマを設けて会員の相互学習と
共同実践の機会提供及び会員参加促進
- 内容
基調講演を中心にパネル討論やフリー交流会
などを実施



課題別部会

- 目的
会員が有する課題の解決策を議論する
実践的機会の提供、会員ネットワーク質的向上
- 内容
会員課題を把握し、課題別部会を設置し、
課題検討、プロジェクト提案等の機会を設ける



その他

- 現在の若手職員が2050年には各事業者の中核を担う人材になるため、必要な知識の習得や主体性の醸成を目的とした若手職員向けの学習会を開催

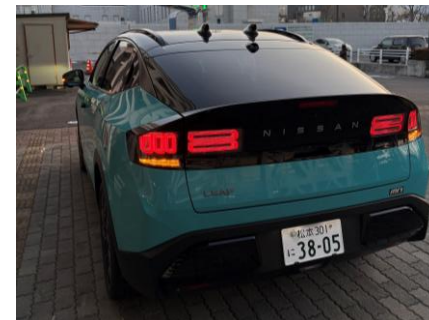
● 今年度の取組み（定例フォーラム）

第13回定例フォーラム 参加人数：100名	「迫る気候変動の危機に向けた地域の取り組みのこれから」 一般社団法人Climate Integrate 代表理事 平田 仁子氏
第14回定例フォーラム 参加人数：60名	「EVの動向と、充電に関する基礎知識」 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員 櫻井 啓一郎氏
家庭部門の脱炭素化を考える 特別フォーラム 参加人数：63名	「オランダのエネルギー協同組合ワットヌに学ぶ家庭部門の 脱炭素化支援」 北星学園大学 文学部 心理・応用コミュニケーション学科 准教授 寺林 暁良氏
第15回定例フォーラム 参加人数：61名	「太陽光発電の導入場所が広がる ペロブスカイト太陽電池 とプラグインPVの技術動向」 公益財団法人自然エネルギー財団 上級研究員 尾身 悠一郎氏



● 今年度の取組み（課題別部会）

省エネ建造物部会 参加人数：20名	「株式会社アスピーア ZEB建築完成見学会」 場所：株式会社アスピーア ASUPIA NEXT
モビリティ部会 参加人数：24名	「松本平のモビリティの脱炭素を進めるためには」 場所：松本市役所 大会議室
再エネ部会 参加人数：24名	「みのわサスティナブルエネルギーPG 現地視察研修」 場所：箕輪町役場
再エネ部会 参加人数：27名	「地球の恵みファーム・松本 現地見学会」 場所：地球の恵みファーム・松本
省エネ建造物部会 モビリティ部会 参加人数：28名	「株式会社角藤中央事務所 現地見学会」 「新型 日産リーフ試乗会」 場所：株式会社角藤 中央事務所



7 MZCCの展望

【現状の整理】

- ・活動量は増加
- ・会員の実践例が生まれつつあり
- ・会員同士の関係が深化しつつあるが



【課題】

- ・課題の深掘りをすべきでは
（企画が単発になりがち）
- ・もっと仲間を増やすべきでは
- ・会員同士のプロジェクトが
もっと生まれるといいのに



運営委員会の活性化

エネルギー事業会社3社も加わり、現場の課題を共有し
情報交流を活性化することで、企画段階で課題深掘を意識

MZCCの使い勝手向上

実践部会（会員同士のプロジェクト形成）の設置

8 松本市としてMZCCをどのように利用してきたか

- ・ MZCCの枠組みを通じて会員に声をかけ、積極的に巻き込みながら市の施策を検討
- ・ MZCCの使い方を模索

活用実績

- (1) 地域エネルギー事業会社の設立
- (2) 脱炭素先行地域事業におけるオフサイト太陽光の検討
- (3) ゼロカーボン市民アクションプランinまつもとの域内展開

活用実績① 地域エネルギー事業会社の設立

(1) 経緯

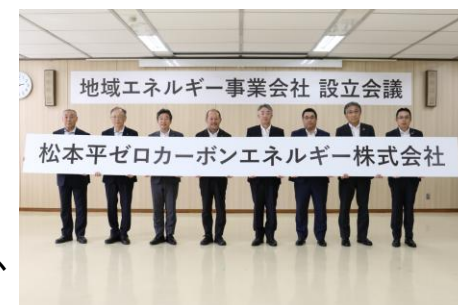
- ・ 再エネ関連事業の中核的役割を担う地域エネルギー事業会社の設立を検討
- ・ まつもとゼロカーボン実現計画において「地域新電力の設立など地域エネルギー供給事業の具体化」を個別施策のひとつに掲げる。

(2) MZCCにおける取組内容

- 令和4年7月 第2回定例フォーラムにおいて「地域エネルギー事業会社の検討について」というテーマで松本市から会員に共有
- 令和4年8月～9月 地域エネルギー事業会社の設立検討に向けた意向に関するアンケート調査を会員向けに実施→61者から回答 約5割が出資に興味あり
- 令和5年8月～9月 出資に興味を示した会員に対して、再度アンケート調査及び個別ヒアリングを実施し、中核事業者候補を選定
- 令和5年10月～ 中核事業者候補と設立に向けた協議を実施

(3) 取組による成果

令和6年8月 MZCC会員の松本ガス株式会社が中核事業者となり、同じく会員である東洋計器株式会社、エア・ウォーター東日本株式会社、松本信用金庫、松本市、塩尻市、朝日村、山形村とともに、**松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社 (MZCE)** を設立



(参考資料) 松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社について

2050ゼロカーボンに向けた起爆剤 地域エネルギー事業会社 松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社 (MZCE) 設立

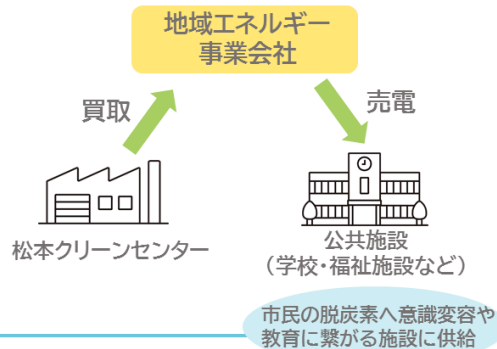
事業目的

再エネの供給・開発と良いサービスの提供により
松本平の脱炭素社会を実現し、
地域内経済循環の構築と地域課題解決に貢献する。

主な 事業内容

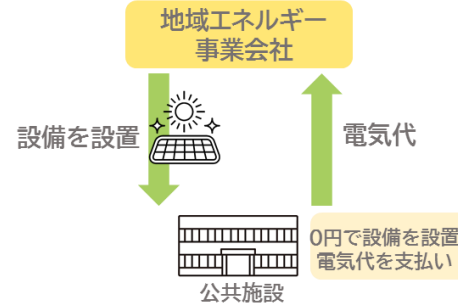
小売り電気事業

松本クリーンセンターの
廃棄物発電の余剰電力を調達し、
公共施設へ供給



太陽光PPA事業

太陽光パネルを公共施設に設置
公共施設から売電収入を得る



・脱炭素の周知
啓発

・地域課題解決に
資する事業



(参考資料) 松本平ゼロカーボンエネルギー株式会社について

<p>松本ガス(株)</p> <p>会社経営の主導、事業実務</p> <p>代表取締役 1名 取締役 2名</p>	出資比率	
		55%
	東洋計器(株) 取締役 1名	13%
	太陽光発電設備の施工・維持の支援	
	エア・ウォーター東日本(株) 監査役 1名	10%
	再エネ電源開発の支援	
松本信用金庫	資金調達・リース支援	4%
松本市	取締役 1名	13%
松本クリーンセンターからの電源調達に係る調整、地域施策との連携		
塩尻市	同上	監査役 1名 3%
山形村	同上	1%
朝日村	同上	1%

フェーズ1(R6~R8): 公共をフィールドに試行。
ノウハウ蓄積→フェーズ2への準備。

フェーズ2(R9~R12): 一般家庭/民間企業への展開開始。
電源調達範囲内で電力供給先を拡大。

活用実績② 脱炭素先行地域事業におけるオフサイト太陽光の検討

(1) 経緯

- ・ 乗鞍地域において、環境省「ゼロカーボンパーク」第1号に登録
- ・ 令和4年4月に自然公園型の脱炭素先行地域として、第1回選定に申請し採択
- ・ 事業継続のため、地域内河川を利用した小水力発電と併せて、乗鞍地域内外における太陽光発電事業の可能性について検討
→太陽光発電事業の電源が必要となった。

(2) MZCCにおける取組内容

- 令和7年3月 MZCC会員向けにオフサイト太陽光事業の検討に係る説明会を開催
 - ・ 約40者が参加
 - ・ 宮之本 前副市長が会員に向けて協力を呼びかけ
- 令和7年4月 説明会を踏まえて電源開発及び電源用地貸与に興味を示した事業者13社にヒアリングを実施

(3) 取組による成果

検討の結果、脱炭素先行地域から辞退することになったが、MZCC会員の協力もあり乗鞍地域の年間電力需要量分を生み出す太陽光発電の容量2,800kWのうち、公共施設含め2,700kW分の設置可能性を短期間で見出すことができた。

活用実績③ ゼロカーボン市民アクションプランinまつもとの推進

(1) 経緯

- ・ 令和6年度に無作為抽出で選ばれた市民約50人を対象に「気候市民会議まつもと」を開催
- ・ 専門家からの情報提供を踏まえて意見を出し合い「ゼロカーボン市民アクションプランinまつもと」を市民が中心となってまとめた。
- ・ アクション1-3「市民が気候変動対策を進めるための相談窓口を活用するなどして、自分ができる気候変動対策を把握しよう」
- ・ 相談窓口の具現化に向けて、事業者が持っている知識やノウハウが必要であった。



(2) MZCCにおける取組内容

- 令和7年8月 「家庭部門の脱炭素化を考える特別フォーラム」開催
- 令和7年9月～10月 MZCC会員のうち家庭部門のBtoCサービスを実施している企業等8社にサウンディングを実施
- 令和7年11月～現在 相談窓口の具現化に向けた、実践部会準備会を開催
→合計で21者のMZCC会員が参画



(3) 取組による成果

- ・ R8年度からSBCくらしフェア、NBSグッドライフフェスタに相談カウンターを設置予定
- ・ 来年度の新年度総会において、**実践部会を設立予定**
→実践部会は、MZCC会員が事業提案者となり、メンバー募集を通じて、会員は取組む事業ごとに自由に参加できる仕組み

(参考資料) ゼロカーボン市民アクションプランinまつもとについて



「じぶんごとプラネット」というコンテンツで
自分のCO₂排出量を計算することができます!

スタート地点

1 気候変動対策の入口へ一歩踏み出そう!

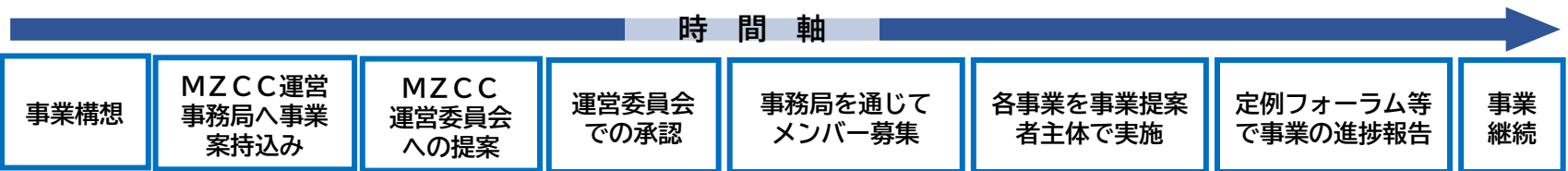
- 気候変動を身近に感じる機会に参加しよう
- アプリなどを使って、自身や家庭のCO₂排出量を「見える化」してみよう
- 市民が気候変動対策を進めるための **相談窓口** を活用するなどして、自分ができる気候変動対策を把握しよう

詳細はこちら
(松本市HP)



(参考資料) 実践部会のイメージ

事業提案者が事業責任者となり、全体の統括を行う。会員は、取組む事業ごとに自由に参加できる仕組みとし、事業に要する費用は参加者が持ち寄る。





松本平
ゼロカーボン
コンソーシアム

ご清聴ありがとうございました